

会 議 録

会 議 名	平成 30 年度 嵐山町総合戦略検証委員会					
開 催 日 時	平成 30 年 7 月 24 日（火）	開 会	10 時 00 分			
		閉 会	11 時 50 分			
開 催 場 所	嵐山町役場 町民ホール					
会 議 次 第	1 開 会 2 任命書交付 3 町長あいさつ 4 委員紹介、事務局紹介 5 議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 会議録の署名人の任命について (3) 嵐山町総合戦略の検証について (4) 嵐山町総合戦略の改定について (5) その他 6 閉 会					
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0 人			
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	会 長			委 員	池原 賢二	出
	副会長			委 員	笠原 孝	出
	委 員	伊藤 武雄	出	委 員	鹿倉 貞二	欠
	委 員	大塚 基氏	出	委 員	内田 方巳	出
	委 員	高坂 英夫	出	委 員	荒井 忠正	出
	委 員	松本 勉	出	委 員	秋葉 正幸	出
	委 員	久保田 尚	欠	委 員	青木 裕子	出
	委 員	山田 朋美	出	委 員	宮本 紀子	出
	委 員	松村 克彦	出	委 員	田中 操	欠
	安藤副町長					
事 務 局	地域支援課長 伊藤 恵一郎					
	地域支援課副課長 青木 正志					
	地域支援課主査 藤野 広之					

次 第	顛 末 (要点筆記)
1 開 会	伊藤地域支援課長
2 任命書交付	副町長より任命書を交付した。
3 あいさつ	<p>(安藤副町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町は、近隣の町村では滑川町を除き人口減少率が最も少なく、本年6月1日現在で人口ビジョンの目標を400人上回っている状況です。特に力を入れている企業誘致に関しては、インター周辺地区の都市計画決定が終わり、次の段階に進んでいます。花見台工業団地の約10haの拡張についても順調に進んでいます。駅前の活性化においては、5月に「嵐なび」がオープンし活性化の拠点となっています。「千年の苑」については来年の正式オープンに向けて準備が始まっています。 ・これらの総合戦略に位置付けられた事業が皆様のご支援により順調に進展しており、心より厚くお礼申し上げます。
4 委員紹介、事務局紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員より自己紹介を行った。 ・事務局の紹介を行った。
5 議 題	<p>(1) 会長及び副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長が決定するまでの間、副町長が議事の進行を行う。 ・副町長より会長の互選を諮る。 <p>(選出及び立候補等なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、これまでの選任について説明した。 <p>(副町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前はこのように選任していたが、どうか。 <p>—意見無し—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは同じ選任方法でよいか。 <p>(異議無く了承される)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田会長、高坂副会長よりそれぞれ挨拶を頂いた。 <p>(副町長が他の公務のため退席)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田会長が議長となり、議事の進行を行う。 <p>(2) 会議録の署名人の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より前回までに名簿順でお願いしており、引き続き同様にしたいとの説明を行い、池原委員と笠原委員を議事録署名人として決定した。 <p>(3) 嵐山町総合戦略の検証と今後の事業について</p>

- ・事務局より資料 1～4 について説明を行った。

(事務局)

- ・質問を受ける前にまず、本日欠席された久保田先生より、前もってご意見を頂いています。お手元に配布しておりますが、読み上げさせていただきます。

『先日はご足労頂きありがとうございました。

ラベンダー畑のお話など、恐縮ながら知らなかったことをいろいろ教えて頂き、大変勉強になりました。

頂いた検証結果等の資料を拝読しました。

まだ目標値に達していない事業もあるようですが、ラベンダーの件も含め、今後が大いに期待されると思いました。

全体としてみると、とてもポジティブな内容と言ってよいと思います。

一つだけ気になったのは、めんこ 61 事業です。

せっかくの名物ですし、「食」は、まちおこしの最強ツールですので、もっともっと力を入れてもよいと思いました。

嵐山町を訪れた観光客が、必ず口にでき、人づてに評判が広がるような、積極的な事業が欲しいと思いました。

私の教え子に、嵐山町出身の者がいます。

大学時代は電車とバスで、地元から埼玉大学まで通っていました。

いまは、東京で建設コンサルタントとして働いているのですが、現在は地元から離れています。

こういう人が地元に戻ってこられるようにするにはどうすればよいか、がとても重要な気がします。

住民意識調査にも同様の調査項目が含まれていますが、できれば、次は、「いまは地元から離れている嵐山町出身者」の意見を聞けるような工夫をお考え頂ければ幸いです。』

以上です。

(内田会長)

- ・何かご意見がありますか。

(山田委員)

- ・今年の雨が降らない異常気象でラベンダーが大丈夫なのか心配です。交付金をもらって運営しているが、交付金がなくなった時に町としてどのようにしてゆくのか。せっかくの広い土地なので、ラベンダーに限らず、ひたちなか市のように、いろいろな花で一年中来客を見込む取り組みを考えてもらえるとありがたい。

(事務局)

- ・ラベンダーは元々暑いところの植物で、暑さには強いようです。ただし湿気には弱いので、雨の後に気温が急に上がることを心配していま

す。

現在、3年間続く交付金を活用して運営していますが、来年以降は入場料、駐車場料などによる運営を検討しています。今年の入場者数は7万人程度でした。試算では有料の来場者が5万人程度で維持管理経費が賄えるのではないかと考えています。他にイベント経費などありますが、町の助成なく運営していけるよう検討を重ねています。何種類もの花というお話ですが、さらに維持管理費かかかってくることもあり、今はまだラベンダー園が完成していませんので当初の目的であるラベンダー畑 10.5ha の完成に向けて進めてゆくというのが現在の状況です。また、マイラベンダークラブ会員を募集して町民のかたに植え付けをしてもらい、愛着を持ってもらうような施策も行っています。

(高坂副会長)

- ・プレオープンを行い、来年への課題が出てきたと思う。あの場所は農地なので建物が建てられない。イベントを行う3週間から1か月の期間、テントでは保健所の許可が大きな問題になると思う。イベントとして保健所が許可するのは4日程度で、それ以上になると、きちんとした建物でないと食品を売れないのではないかと。十分な検討をしてもらいたい。

(伊藤委員)

- ・食中毒予防のための保険にも入らないといけない。個人加入するか、団体で加入するかなど、よく検討してもらいたい。
- ・今回のイベントでは、適正な検査をした後出店しているか疑問もある。我々は適正に行っている。テントで販売する場合にはテント用の保健所の許可もある。よく検討してもらいたい。

(事務局)

- ・保健所の件については、先進地を参考にしながら検討してゆくことになると思います。プレオープンを行い、課題がたくさんあったようです。千年の苑推進協議会で事業を行っており、いろいろな人の意見を聞きながら進めることになっていますので、事業課に伝えさせていただきます。

(内田会長)

- ・千年の苑については、本来はどのような目的で始めたことなのか。町の活性化のためにどのような方法でも良いから始めたのか。農業の活性化のためというが、どのような内容なのか。

(大塚委員)

- ・私は、農業の振興に繋がるかどうか疑問に思っている。本来は優良農地であり、農地として使うべきだというのが基本的な立場だ。町としての考えもあるだろうが、農家としてはどうかと思う。

- ・現在は農業ではなく観光事業ではないか。事業主体は観光協会か、商工会かどこなのか。決まっていなければこの事業はどうなるのかというのがよく聞く意見だ。

(事務局)

- ・事業主体は「千年の苑事業推進協議会」で、らんざん営農、商工会、観光協会、鎌形区、南部土地改良区、社会福祉法人 昂で構成されています。
- ・「千年の苑」の事業内容ですが、そもそも観光農業ということで、農業の一環として行っています。さらに、そこで野菜等を売るなど稼いでいただき、農業活性化の一環として活用していただきたい。人がたくさん来るということは、稼ぐチャンスでもありますので、それを農業の活性化に繋げていただきたい。まずは耕作放棄地の対策ということでも始まりましたが、農業の収益を上げていただくのも重要で、農業者が潤うようになっていただきたいと考えております。ラベンダー園はあくまで人を呼ぶためのツールであります。ラベンダーを利用して参加する皆さんで儲けていただきたいと考えております。

(宮本委員)

- ・ラベンダーの事業は、あの場所を宅地や荒地などにせず農地として守ることと、町の観光事業を併せた施策だと思っている。
- ・めんこ 61 事業について、ラベンダーを見たらめんこを食べて帰ってもらえるような方法は考えられないか。農産物直売所に行かないと食べられないのではなく、トイレなどが整備された環境の良い場所をもう少し増やして、増加した観光客がどこかでめんこが食べられるという手立てを考えてはいかがか。農地だから建物が建てられないということがあるかも知れないが、ラベンダー園の近場で、町民がうどん屋を起業するなど考えることが将来性に繋がるのではないか。
- ・観光客にまた来たいと思ってもらうためには、嵐山町ならではの個性的なイベントをやっていく、ボランティアへも呼びかけ連携して考えてゆくのも一つの方法ではないか。舞台でのイベントや手芸教室を行うのも良いが、他の部分でも文化的な催しを加えられないか。町の人々が持っている技術を生かした、人とのつながりが感じられ、あまりお金をかけず参加できることがあるというのは、来た人に魅力的に映るのではないかと思う。
- ・ラベンダーに関わらない地元の人々が作った小物なども、ラベンダー園のイベント時に店を出して良いのか。

(事務局)

- ・事前にご相談いただければ、内容により可能かと思えます。

(青木委員)

- ・久保田先生の話にもありましたが、食べ物のことです。ラベンダー園

のイベントでは飲み物の店は出ていたが、食べ物は焼きそばなどしか出ておらず、大変な行列になっていた。ラベンダースティック作りも行列で、作れなかったという人もいた。プレオープンでの課題の対策をとってもらいたい。

- ・「嵐なび」に行ったが、2階は高校生や電車待ちの人が寛いでいたが、1階は閑散としていた。嵐山の名物も品ぞろえが寂しい感じだった。利用者の増加が大きな課題だと感じた。多機能にわたる利用ができ、嵐山に来て良かったと思えるような場所にしていただきたい。
- ・ときがわ町は、子供の多い世帯の転入が増えているという話を聞いた。広い空き家に子供連れで転入しているとのことだった。空き家の利用の参考にして人口増に繋げてもらいたい。

(秋葉委員)

- ・学校の敷地が避難所になっているので、以前、防災ボランティアをPTAに依頼してもらおうよう話したが、依頼されていないので残念である。
- ・菅谷小学校の屋外トイレが壊れている。夜間や土日に災害が発生して避難所となったときに、学校が閉まっているとトイレが使えないので対応を考えてほしい。
- ・嵐丸ひろばは、当初は町外の人には使えないという話だったが、今は町外の人をかなり受け入れているという話を聞いた。町外の人から利用料を取っていないので、財政が厳しいなら利用料を取るべきではないか。
- ・「嵐なび」は嵐山町の玄関だと思っているので、特産品とかお土産を充実させて欲しい。
- ・高速道路の嵐山パーキングはお菓子などのお土産が充実しているが、それを作っているのは町外の業者で、町内業者は一つも無く、とても寂しい。嵐山町の地元業者が入れないようであれば、町として支援できないか。また、町外の業者のお土産を嵐なびに置いてもいいのではないか。

(事務局)

- ・防犯ボランティアの件は、今後検討させていただきたいと思います。
- ・菅谷小学校のトイレですが、壊れているのであれば修繕が必要ですが、内容により多額の予算が必要です。今後の課題とさせていただきたいと思います。
- ・嵐丸ひろばについては、当初から町外町内ともに無料で使うことができます。有料のデメリットとして、利用者の固定化があると思います。現在のところ利用料を取ることは考えていません。
- ・嵐山パーキングに地元業者が入れないということはありませんが、納品のルールハードルが高く嵐山の業者が入りづらいのではないか

と思います。

(伊藤委員)

- ・私も嵐山辛モツ焼きそばを嵐山パーキングに出していたが、NEXCO の条件がいろいろあり大変だった。納品・返品等の人件費がかさんだこともあり採算が合わないため出さなくなった。条件をクリアすれば出来るが、それなりの事業者でなければ難しいと思う。
- ・「嵐なび」は、観光協会の事務所を予定していたと聞いており、食品を販売する要件を満たしていないとのことである。また、販売を行うことで周囲の商店への影響にも配慮して運営している。現在は、お酒の販売許可だけは得たが、他の食べ物は難しいと考える。

(青木委員)

- ・佐渡市の観光協会にも行ったことがあるが、パンフレットは置いてあったが、実際のお土産は別の売店で売っていた。

(内田委員)

- ・嵐山町の観光協会の問題は、町から補助金を貰わず、バーベキュー場の利益だけで運営しているため、資金的に事業の多角化が難しい状態である。

(伊藤委員)

- ・今の「嵐なび」の話も、本当はやりたいけれども、人件費などを考えると出来ないのが現状である。例えばハイキングに来る人に野菜も置いて欲しいと言われているが、コストの問題がある。

(宮本委員)

- ・「嵐なび」2階のテーブルに、ボランティアで花を飾っている。嵐山の自然の花を飾って嵐山町の雰囲気伝えたい。協力できる人がいたら教えてほしい。花を提供していただける人を探している。

(内田会長)

- ・嵐なびの観光案内所に常時人がいる状態が理想的だが、誰もいないことがある。費用面の問題もあるが、色々な意味での活用をお願いしたい。

(大塚委員)

- ・獅子舞やお囃子などの活動をやっているが、補助金を削られてしまった。今後も減らされるのか聞きたい。

(事務局)

- ・今年度については、すべての補助金が1割減となっています。今後については予算にもよりますが、現時点では一時的なものと考えております。

(宮本委員)

- ・伝統文化を守り伝える部分は、押しなべて一律削減でなくても良いのではないかと。

	<p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化を守る活動であれば、別の補助金を新たに受けることも検討できるのではないかと。今の補助金が削られても、町は新しい補助金を考えて用意しているので、申請してみてもいいかと。 <p>(大塚委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今のラベンダー畑には雑草たくさん生えている。また、植えたラベンダーが枯れているが。この土地に合っているのか心配だ。 ラベンダー農地の場所は、皆に事業に協力してもらって始まっている。農地を貸した農家は、農地を返されても困るのではないかと。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ラベンダーの維持管理は専門家である農業活性化アドバイザーの意見を聞きながら、行っていますのでご了承をお願いします。雑草の駆除につきましても、検討しながら効率的に出来るよう考えているとのことですので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。 <p>—その他の意見無し—</p> <p>(4) 嵐山町総合戦略の改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より資料5について説明を行った。 <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何かご意見がありますか。 <p>—意見無し—</p> <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見がないようですので、この議題については終了します。 <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より委員報償について説明を行った。 <p>(内田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> それでは、議題は全て終了しましたので、議長の座を下ろさせていただきます。
6 閉会	高坂副会長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>平成30年8月20日 署名委員 <u> 笠原孝 </u></p> <p>平成30年8月28日 署名委員 <u> 池原賢二 </u></p>	